

これからの経営者

塚 腰 智 之
(株式会社塚腰運送)
代表取締役社長



現在の世相は、非常に変化が激しく私が育った1970、1980年代とはまるっきり変わってしまった。当社は創業して112年目を迎えるが、祖父の時代は正月の三が日しか休まず、ほとんど仕事をしていた。今では超ブラック企業と呼ばれるのだろう。家庭＝職場みたいな状態なので、職場内に碁があったり、将棋があったりして、社員みんなが家族のように仕事をしていた。今みたいに社長は社長、社員は社員と分けられ、完全に管理された時間の中で仕事をし、上司が部下に使う言葉さえも気を使わない現代とはまるっきり違う自由な環境の中で仕事をしていたと思われる。これは当社だけに限ったことではなく、どんな業種の会社様も同じだったのではないだろうか。

現在はあまりにも殺伐としているように思う。1分でも残業があれば即賃金に反映させないとならないし、ちょっとしたことでもセクハラ、パワハラ、モラハラと言われ、なかなかハッキリともものも言えない。注意もしにくく昭和育ちの私にとってはなかなか深く良い人間関係を作ることは難しくなった。昔が良い、現代が悪いというわけではないが、会社内の人間関係だけでももう少し社員同士の人情や心の余裕がある関係へと変化させていった方がいいのではないかと思う。特に私たち経営者は、それほど社員とベラベラしゃべることがない。社員の輪の中に入って、共に時間を過ごす経営者は少ないだろう。そんな孤独な環境の中で過ごす経営者は、昔よりもはるかにストレスを抱えた状態ではないだろうか。社内で起こるあらゆる問題に対応し、どちらかというビジネス以外における社員同士のいざこざや雑務などの対応に追われる。

そのようなストレスフルな状況におかれていながら、私たちの話題と言えばほとんどが新聞やテレビから流される社会や経済問題の話題がほとんどだ。話題がそれしかない中高年男性は、話の内容が暗い。なぜなら朝から報道されるニュースの内容が暗いからだ。ニュースで明るい話題などほとんど見たことがない。もし明るいニュースがあるとすればスポーツぐらいだろうか。だから必然と話題は暗いニュースを見た話題になりやすい。

朝のトップニュースはほぼ社会、経済、政治問題。会社に行ってから、社内の問題に対応する。やっと帰宅の途に着いたときにはクタクタになっていて、家に着いてははじめに見るのは、やはり暗いニュースだ(笑)。一日の疲れは、暗いニュースで癒されるのだろうか。入浴を済ませた後で見る番組もニュースが多い。朝から寝る間際まで、戦争、コロナ、政治家の問題、社会問題、会社内の問題と、問題に取り囲まれて一日を生活しているようなものだ。そのせいか、

通勤電車では苦虫をかみつぶした顔をされているビジネスマンが多い（笑）

確かに社会問題、医療問題など私たちの生活や人体に関わることや会社経営に関わる問題は、少しでも早く情報を手に入れて自分たちの生活や経営に活かさなければならない。よくニュースや新聞を見る人は、情報量、知識量も多いし、頭も良い。しかし、本当にどれだけの人がニュースを見て会社の方針転換などに活かしているのだろうか？

私は、そのような問題に対応していくことも大切だと思うが、それよりも経営者は元気で明るくいなければならないと思っている。元気があり、活力がある経営者には、いいアイデアやヒントが天からおりてくるように思うからだ。そのアイデアやヒントが事業を大きく転換させていく。暗い気分が良いアイデアが湧いてくるわけがないように思う。だから、私は朝から真剣にニュースや新聞を見ない。かいつまんだ情報だけは見る、聞くという具合だ。私の朝は、クラシックなどを聞きながら家族との会話を大切に、笑い合っ朝の支度をしたり、気分良く食事をしたりして過ごしてから出勤するという朝だ。問題、問題、問題に取り囲まれた頭の中からいいアイデアは生まれないと思うからこういう朝を過ごしている。

このコロナが明けた後は、まだはっきりしないが、確実に世の中が変化するのは間違いない。江戸時代から明治時代が変わった時、刀をぶら下げちょんまげを結って着物を着ていた時代から、武器などとんでもない、身分の違いなどあってはならないし人間は平等であるのだとし、第二次世界大戦前と戦後の時代では、今まで着物であった衣装がTシャツにジーパンが普段着となる世の中へと変化していった。これと同じくコロナ前とコロナ後は、人の価値観が大きく変化するはずだ。私たちが日々追いつめていく経済、つまりお金に対する価値観が大きく変化し、お金の中心としたモノの時代はいつまで人を支配し続けることが出来るのだろうか。あと10年もすれば、生活の中心であったお金がもしかしたら無くなることさえ考えないとならない。そう考えると、私たち経営者はお金を求めて活動しているのであって、それが果たして意味があることなのかということをも改めて考え直す必要があるように思う。

大切だと思うことは、何のために経営するのかという根本的な考えを問い直すことだ。

これから来る世の中は、テクノロジーが進化し労働環境が整備された近未来では、時間に余裕が出来るはずだ。古代の生活にテクノロジーが乗るといっても良いかもしれない。

そのような世の中に転換するこの転換期をどう乗り越えていくのか？人の心が豊かであれば、この転換期に柔軟に対応し、無理なくスムーズに移行できるように思える。しかし、過去に執着したり、世の中の問題点にだけ頭を向けたりする人は、固執した考えから抜けきれない。その為新しい時代の到来とともに訪れる経済の変化に乗り遅れてしまう。どのような世の中が訪れるのかは分からないが、私たち経営者が取り組む経営というものは、人を幸せにするものである。人を幸せにするにはまず自分が幸せな気持ち、気分を持っていなければならない。その為今日も気分よく、楽しく、笑いながら仕事をすれば経営にとって一番大切なアイデアがどこにもなくわいて楽しく、よい一日を過ごせるように思う。

もう一度経営の原点に戻って、自分、社員、世の中の人の幸せというものを考えないとならない時に来ていると思われる。